

平成21年度 施策評価結果一覧

政策体系	施策名	施策の概要				1次評価・2次評価		所管部	事務事業(1次評価の方向性)				
身近な自然と歴史文化を未来に伝えるまちを創る -1 地球の未来を思い、多様な自然を尊重するまち -1-1 環境への負荷の少ない暮らしや事業活動が行われている	1.地球温暖化の防止	太陽光発電など環境にやさしい新エネルギーの利用と省エネルギーを推進し、地球温暖化の防止に取り組む。				判定	A 予定どおり(以上)である		生活環境部	1.住宅用太陽光発電システム導入促進事業(継続) 2.環境にやさしい事業所推進事業(継続) 3.エコファミリー推進事業(拡大)			
		成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)					単位	基準値			実績値	目標値	
		住宅用太陽光発電システム設置件数(市内で設置している世帯の数)				件	259	-			650	1次評価	太陽光発電システムの普及については一定の効果を得たが、平成20年度から当該補助制度を廃止したため、「エコ・ファミリー事業」についての指標を補完的に追加した。平成20年度の実績160世帯を基準値として、今後進捗の度合いを管理する。 (参考)H19指標の実績: 413 なし
		【補完指標】エコファミリー事業(家庭での環境にやさしい生活)へ新規に参加した家庭の数				世帯	160(H20)	160			400		
								2次評価	家庭で取り組む環境にやさしい行動を決めて1年間取り組んでいただき、3ヶ月ごとに報告、1年間継続していただく制度を「家庭版エコ・ハート」とし、家庭から電気・ガス・水道・ガソリン・灯油・軽油の使用量を4ヶ月に一度市に報告していただき、市が温室効果ガス排出量を算出して登録者にお知らせし、2年間継続していただく制度を「家庭版エコ・リーダー」とする。各コミュニティに30世帯程度依頼し、報告用紙もコミュニティで回収してもらう。また、子供版エコファミリーを作成し、小学校5年生に夏休みの1ヶ月間取り組んでいただく。 判定 A 予定どおり(以上)である				
外部評価	意見・提言	判定 A 予定どおり(以上)である		・地球温暖化の防止のためには、自然環境(緑化・水の大切さ)の整備も大切である。関係部署がタイアップした啓発事業が必要である。									
	2.循環型社会の構築	自然界から採取する資源を最小限に抑え、4Rを推進する。また、資源ごみを効率的に再利用するために、市の施設を整備し、ごみの分別処理機能の充実を図る。				判定	A 予定どおり(以上)である		生活環境部	4.ごみ減量推進事業(継続) 5.塵芥収集事業(改善) 6.し尿収集事業(継続) 7.資源ごみ収集事業(改善)			
		成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)					単位	基準値			実績値	目標値	
		資源ごみの収集率(資源ごみの収集量/ごみの総収集量)				%	20.4	20.4			21	1次評価	有価物の高騰等により、資源ステーションから紙類等の抜き取りが発生し、パトロール等を実施して被害防止に努めた。 (参考)H19指標の実績: 22.3
								2次評価	循環型社会の構築に向けて、資源ごみの再利用についての啓発や市民によるリサイクル活動を支援するとともに、今後ストックヤード等リサイクル施設の整備についても検討する必要がある。また、収集品目の統一や収集回収の見直し等、より効率的な収集体制を整える必要がある。 判定 A 予定どおり(以上)である				
外部評価	意見・提言	判定 A 予定どおり(以上)である		・塵芥・し尿は極力民間委託を推進するとともに、ごみ減量化の推進にあたっては、幼児期からの保護者や各地域を含めた教育・啓発などが必要と考える。また、資源ごみの収集には、全市民が資源ゴミに関心を持ち協力する体制づくりが大切ではないか。 ・可燃、不燃ごみ収集業務を民間委託する方向に向かっているようだが、資源ごみを直営で行うのであれば、島などのごみ収集については引き続き直営ではどうか。 ・瀬戸内海のごみが外洋に流出して問題になっている。他の自治体と連携して解決のために努力してほしい。									
身近な自然と歴史文化を未来に伝えるまちを創る -1 地球の未来を思い、多様な自然を尊重するまち -1-2 豊かな自然のなかに、ふれ合いの場が整備されている	3.自然環境の保全と活用	飯野山や土器川など豊かな自然を保存するとともに、親水護岸や遊歩道などを整備し、市民と自然、市民と市民のふれ合いの場として活用する。				判定	A 予定どおり(以上)である		都市経済部 教育部	8.野外活動センター整備事業(継続) 9.松くい虫防除事業(継続) 10.緑の基本計画策定事業(継続)			
		成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)					単位	基準値			実績値	目標値	
		「自然環境が保全されている」と感じる市民の割合(平成17年9月市民アンケート調査)				%	46(H17.9)	-			50	1次評価	指標の数値はまだ得られていないが、平成20年度に緑の基本計画策定に先立ち、市民3000人を対象に実施した「緑のまちづくりアンケート」では、約60%が「保全されていると感じる」との回答を得ている。土器川生物公園ゲートプラザについては、平成20年度に事業が完了した。 (参考)H19指標の実績: なし
								2次評価	緑の基本計画については、平成21年度策定完了に向け作業を進めているが、早期に策定し、緑の保全と自然を活用し、市民参画による活発な活動をさらに推進したい。土器川生物公園ゲートプラザについては、活用を促進するため、今後は広報・周知に努めたい。また、最近登山者が急増している飯野山については、野外活動センターの整備のあり方について、今後関係者と協議する必要がある。 判定 A 予定どおり(以上)である				
外部評価	意見・提言	判定 B やや遅れているが、将来的に成果が見込まれる		・土器川生物公園が、自然に親しめる環境として市民に活用されることを望む。 ・綾歌山系(城山・猫山・高見坊)綾歌森林公園、綾歌土器川公園等の整備・保存が不十分である。また、このような自然公園をはじめ市内の公園・緑地、市道街路樹などは、地域や市民活動団体との協働で管理していくことも検討すべきである。									

平成21年度 施策評価結果一覧

政策体系	施策名	施策の概要				1次評価・2次評価		所管部	事務事業(1次評価の方向性)			
身近な自然と歴史文化を未来に伝えるまちを創る -2 まちの歴史・文化を学び、未来に伝えるまち -2-1 歴史的遺産の価値が理解され、守られている	4.歴史的景観の保全	伝統的建造物を修理・修景するなど、歴史的に継承されてきたまち並みと一体的な景観の保全に努め、学習・観光資源として活用する。				1次評価	判定	A 予定どおり(以上)である	教育部	11.まち並保存推進事業(継続) 12.笠島伝統的建造物群保存修理事業(継続) 13.文化財保護事業(継続) 14.こんびら街道まち歩き事業(継続)		
		成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)					単位	基準値			実績値	目標値
		笠島まち並保存センターへの年間来訪者数 H23時点で基準値より5%増を目標				人	1443	2116			1800	施策の進捗について まち並み保存センターを訪れる人数が前年度よりかなり増加しており、平成23年度の目標値を上回る成果が得られた。 (参考)H19指標の実績: 1754
												今後の展開等について 本島町の伝統的建造物群のまち並みを維持し、地元のNPO法人と協力して、島の活性化、市民文化の向上を図りたい。また、「こんびら街道」や周辺史跡の保存に努め、まち歩き行事などを通じ、市民によるまちの魅力の掘り起こしを推進する。
		判定	A 予定どおり(以上)である			2次評価	判定	A 予定どおり(以上)である				
外部評価	意見・提言	・県の「09香川まちめぐりてくてくさぬき」本市の「ちょっと寄り道こんびら街道」について、歩いて見て古き良き時代をなつかしむだけでなく、歩いて見て感じたことのひとつひとつを景観の修景・保全につなげる努力が必要である。丸亀街道・高松街道も笠島のまち並みのように復元・修景・保全に努めるべきである。					所見・指示事項	【施策の進捗等について】 ・予定どおり進んでいる。 ・新たな観光スポットの創出として、旧金毘羅街道(丸亀街道)の整備について具体的に検討すること。 ・成果指標「笠島まち並保存センターへの年間見学者数」について、実績値がすでに目標値を超えているので、目標値の見直しを検討すること。				
	5.文化財の保護	市内に所在する重要な史跡を保存・整備し、市民や観光客が丸亀市の歴史にふれることができる場として活用する。				1次評価	判定	A 予定どおり(以上)である	教育部	15.埋蔵文化財調査事業(継続) 16.史跡等整備推進事業(拡大) 17.史跡快天山古墳整備事業(継続) 18.市指定文化財整備事業(継続)		
		成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)					単位	基準値			実績値	目標値
		「歴史・文化が豊かで個性がある」と感じる人の割合(平成17年9月市民アンケート調査)				%	20(H17.9)	-			25	施策の進捗について 現在、丸亀城整備事業は休止、快天山古墳整備事業も未買収地購入の手続きが遅れる等目に見えて進んでいるものはないが、「広報まるがめ」裏表紙に「市内の遺跡」の連載を開始しており、市内にある主要な遺跡の紹介、周知を図っている。
												今後の展開等について 「広報まるがめ」で市内の遺跡の周知を図り、文化財は貴重な文化遺産であり、歴史文化の正しい理解のために欠かせない物として保存整備の機運を高める。これらの遺跡を整備・活用し、体感することによって後世へ守り伝えていく。一方、開発に伴う保護事業は、事業活動の障害にもなりうるが、相互理解のうえ保護措置を実施する必要がある。
		判定	A 予定どおり(以上)である			2次評価	判定	A 予定どおり(以上)である				
外部評価	意見・提言	・貴重な文化財である城山(西長尾城跡)の保存・整備が全く出来ていない、国指定史跡となることを目指しているようなので大切に組み込んでほしい。					所見・指示事項	【施策の進捗について】 予定どおり進んでいる。 【個別事項】 ＜史跡等整備推進事業＞ 亀山公園内の園路整備と合わせて、都市計画課と連携のもと、動物園、遊園地の跡地整備を早急に進めること。 ＜史跡快天山古墳整備事業＞ 地元保存会など地域住民と連携したなかで適切な管理・運営に努めること。				
日常生活が営みやすくにぎわいと活力のあるまちを創る - 1 日常生活が便利で快適なまち -1-1 地域特性を活かした土地利用により、良好な生活空間が築かれている	6.適切な土地利用と市街地の整備	都市計画マスタープランに沿った適正な土地利用と市街地の整備を進める。さらに、まちの景観を良くするための基本計画を策定し、自然と都市が調和した美しいまちづくりに取り組む。				1次評価	判定	A 予定どおり(以上)である	都市経済部	19.景観計画策定事業(継続) 20.中心市街地活性化事業(継続)		
		成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)					単位	基準値			実績値	目標値
		「適正な土地利用、市街地整備ができてい」と感じる市民の割合(平成17年9月市民アンケート調査)				%	37(H17.9)	-			45	施策の進捗について 市街地再開発については、都市計画決定の廃止に向けて、都市計画変更案の閲覧等を行った。景観については、市民公募による景観資源の調査、景観に対する市民意見の把握のためアンケート調査・ワークショップを実施した。 (参考)H19指標の実績: なし なし
		「景観に配慮したまちづくりができてい」と感じる市民の割合(平成17年9月市民アンケート調査)				%	48(H17.9)	-			55	今後の展開等について 市街地再開発事業については、平成21年度で都市計画決定を廃止し、新たに地区計画(丸亀駅前南地区地区計画:0.9ha)の都市計画決定を行い、地区内の用途の制限等を設ける。景観については、平成21年度で景観計画を策定し、景観形成の方針を示す。中心市街地の活性化については、これまでの商業振興中心の施策から、「人が定住し、生活を営むこと」で、持続可能なにぎわいを創出する取組みが不可欠であると考え。
		判定	B やや遅れているが、将来的に成果が見込まれる			2次評価	判定	A 予定どおり(以上)である				
外部評価	意見・提言	・「新たな民間活力の導入、調和した土地利用」こうしたことは、数年来同じことが言われている。特に商店街については、アーケードやカラー舗装の設置・補修等に伴う団体への補助金など、市の予算が多く投入されているが、依然衰退した状況が続いており解決の兆しが見られない。中心市街地の活性化に向けて、本年度から定住促進に向けた取組がなされているようであるが、現時点での施策の進捗状況については、A評価(予定どおり(以上)に進んでいる)とは言えない。					所見・指示事項	【施策の進捗等について】 予定どおり進んでいる。 【個別事項】 ＜中心市街地活性化事業＞ 街なかの定住促進に向け、税制面でも考慮するなど、新たな制度導入についてさらに検討が必要と思われるので、事業の方向については「改善」とする。				

平成21年度 施策評価結果一覧

政策体系	施策名	施策の概要				1次評価・2次評価		所管部	事務事業(1次評価の方向性)			
日常生活が営みやすくにぎわいと活力のあるまちを創る - 1 日常生活が便利で快適なまち -1-1 地域特性を活かした土地利用により、良好な生活空間が築かれている	7.住宅・住空間の整備	良質な宅地の整備を推進します。また、健康で文化的かつ安全な住宅を提供できるように、計画に基づいて市営住宅の整備と管理に努める。				1次評価	判定	B やや遅れている(現時点で数値の向上が見られないが、今後成果が期待できる)	都市経済部	21.土地区画整理事業(継続) 22.市営住宅整備事業(継続) 23.住宅用火災報知器設置事業(継続)		
		成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)					単位	基準値			実績値	目標値
		区画整理整備面積		現在実施している事業のH23完了を目標		ha	2.1	2.1			6.1	
		市営住宅改修済戸数		毎年60戸前後の改修を目標		戸	400	580			700	
外部評価		判定	B やや遅れているが、将来的に成果が見込まれる			2次評価	判定	B やや遅れているが、将来的に成果が見込まれる				
		意見・提言	特になし				所見・指示事項	【施策の進捗等について】 土地企画整理について、保留地処分の進捗は認められるが、整備実績が向上していないことにより、判定をBとする。早期に事業を完了されたい。				
	8.公園の整備	人口動向や利用状況などを調査し、地域の実態に応じて公園を整備するとともに、既存施設のバリアフリー化などを行い、誰もが安心して利用できる施設にする。				1次評価	判定	A 予定どおり(以上)である	都市経済部	24.東汐入川緑道公園整備事業(継続)		
		成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)					単位	基準値			実績値	目標値
		「公園・緑地が整備され、よく維持管理されている」と感じる市民の割合(平成17年9月市民アンケート調査)				%	51(H17.9)	-			55	
外部評価		判定	A 予定どおり(以上)である			2次評価	判定	A 予定どおり(以上)である				
		意見・提言	・公園については、施設のバリアフリー化、トイレなど便益施設の設置、芝生による緑化などある程度の整備ができていますが、草抜き等維持管理が不十分な箇所が時々見受けられるので、施設の維持管理についても十分をお願いしたい。 ・公園の整備対象が片寄りすぎていないか。また、この種の事業は市民団体等と十分連携をとり協働事業とし取り組み、行政が適切な支援を行うべきである。				所見・指示事項	【施策の進捗等について】 予定どおり進んでいる。				
日常生活が営みやすくにぎわいと活力のあるまちを創る - 1 日常生活が便利で快適なまち -1-2 公共交通機関や道路が整備され、安全で便利な生活ができる	9.公共交通の整備	民間路線バスや離島交通を確保し、コミュニティバスを運行する。				1次評価	判定	B やや遅れている(現時点で数値の向上が見られないが、今後成果が期待できる)	生活環境部	25.コミュニティバス等運行事業(継続) 26.離島航路補助事業(継続)		
		成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)					単位	基準値			実績値	目標値
		コミュニティバスの年間乗車人数		毎年利用者1%増加を目標		人	203308	200310			215500	
		【補完指標】コミュニティバス1台の乗車人数		毎年5%程度の増加を目標		人	6	9.5			8	
外部評価		判定	B やや遅れているが、将来的に成果が見込まれる			2次評価	判定	B やや遅れているが、将来的に成果が見込まれる				
		意見・提言	・コミュニティバスの乗車人数が増加しているのは良い傾向である。 ・コミュニティバスの乗車人数が横ばいならば、A評価(予定通り進んでいる)でも可と考える。				所見・指示事項	【施策の進捗等について】 ・コミュニティバスの乗車人数は、前年度に比べかなり増加しているが、依然基準値を下回っているため、判定をBとする。 ・指標「コミュニティバス1台あたりの乗車人数」について、実績値が目標値を超えている。「地域公共交通連携計画」の作成とも合わせて、目標値の見直しや、新たな指標設定についても検討すること。				

平成21年度 施策評価結果一覧

政策体系	施策名	施策の概要	1次評価・2次評価				所管部	事務事業(1次評価の方向性)	
日常生活が営みやすくにぎわいと活力のあるまちを創る - 1 日常生活が便利で快適なまち -1-2 公共交通機関や道路が整備され、安全で便利な生活ができる	10.道路の整備	国道・県道の拡幅、歩道の設置、バリアフリー化や都市計画道路、地域間の幹線道路、市民生活に必要な生活道路の整備などを行う。	判定	B やや遅れている(現時点で数値の向上が見られないが、今後成果が期待できる)				都市経済部	国道32号改築事業() 国道438号改築事業() 県道道路橋りょう整備事業() 27.中津土器線4車線化事業(改善) 28.市道幹線道路整備事業(改善) 29.生活道路整備事業(継続) 30.御供所地区環境整備事業(継続)
		成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)	単位	基準値	実績値	目標値	1次評価		
		市道整備延長(幅員2m以上の歩道を設置している市道の延長) 毎年0.4km程度の整備を目標	km	47.2	47.7	49.6	施策の進捗について 平成20年度は公共工事の抑制、財政的な問題などにより、整備延長が伸び悩んでいる。 (参考)H19指標の実績: 47.4 2.9		
		市道のバリアフリー化整備延長 毎年0.7km程度の整備を目標	km	2.3	3	6.6	今後の展開等について 補助金はおおむね計画通りであるが、厳しい財政のもと、今後は必要性の高い事業から整備を進めていく必要がある。平成21年度については、国の経済対策を活用し、中津土器線や市道幹線道路を前倒して整備したい。		
外部評価	判定	B やや遅れているが、将来的に成果が見込まれる				2次評価	所見・指示事項	【施策の進捗等について】 市道整備延長があまり伸びていないことから、判定をBとする。特に、中津土器線の4車線化と周辺道路整備については、国の交付金、経済対策を活用し、早期完了に努めること。 【個別事項】 <生活道路整備事業>市道の維持管理についても、道路の修繕計画を立て優先順位を決めておくなど、毎年度予算の範囲内で効率的な改善に努めること。	
意見・提言	<ul style="list-style-type: none"> 道路整備については、予算の範囲内で早急に工事を進めていただきたい。なかでも、浜街道の富士見町近辺の朝夕のラッシュ時の混雑は異常であり、交通事故も心配である。 まちづくり交付金事業(中津土器線4車線化、御供所地区環境整備)は前年度に比べ今年度の事業費を大きく増加しており、これに対し市道幹線道路、生活道路の整備に対する投資額の伸びは小さいものとなっている。もう少し市全域での道路整備に投資されることを望む。 道路はインフラであり、市民生活に大きな影響を与える。国道、県道、市道の区別があいまいな市民にとっては、「国道」だから「県道」だから整備が遅れているというのは理由にならない。特に生活道路の整備は急いで欲しい。 								
日常生活が営みやすくにぎわいと活力のあるまちを創る - 1 日常生活が便利で快適なまち -1-3 上下水道が整備され、快適で文化的な生活ができる	11.上下水道の整備	災害に強く安全な水を安定して供給するため、新たな水源を確保するとともに、浄水場の施設を計画的に整備更新し、老朽化した配水管の更新や連絡管を整備する。	判定	A 予定どおり(以上)である				上下水道部	31.老朽管整備事業(継続) 32.石綿管更新事業(継続) 33.浄水場施設整備・更新事業(継続) 34.自己水源開発事業(継続) 35.水道施設耐震化事業(継続)
		成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)	単位	基準値	実績値	目標値	1次評価		
		更新できていない老朽管(石綿管含む)の延長	m	12810	7980	8550	施策の進捗について 老朽管の更新のうち石綿セメント管の更新については、平成20年度から配水本管の更新を従来の更新の上に実施するため、進捗が従来の計画よりかなり進むことになる。 (参考)H19指標の実績: 10010		
							今後の展開等について 平成20年7月の水道事業変更認可(第9次拡張計画)に基づき、施設の整備・更新を図っていく。今後の課題としては、主要な施設の耐震化や水の高度処理化も求められているので、早急に調査を開始し、これらに対処した事業計画を策定し、安全で安心、おいしい水の供給確保はもとより、災害時にも安定的な水の供給を行えるよう図っていきたい。		
外部評価	判定	A 予定どおり(以上)である				2次評価	所見・指示事項	【施策の進捗等について】 予定どおり進んでいる。 【個別事項】 <水道施設耐震化事業>耐震化計画の策定にあたり、他の施設整備も含め、水道事業経営の長期的視点に立って検討すること。	
意見・提言	<ul style="list-style-type: none"> 上下水道の整備について、全体的には目標に向かって進んでいると思われる。 基本的に「メンテナンスの時代」に入っている上下水道においては、老朽管整備、石綿管更新、耐震化などにもっと力を入れていくべきである。 老朽管と石綿管の更新について、総延長12,810mのうち平成20年度までに整備が完了した累計が4,830m(達成率37.7%)となっており、残り3ヵ年で目標を達成するには多額の投資が必要と思われる。コスト削減を図りながら早期完了を望むとともに、綾歌・飯山地区の消火栓整備とも深く関連すると思われるので、消防部局と連携のもと効率的に事業を進めてもらいたい。 自己水源の開発について、深井戸の掘削も必要であるが、三豊市の「宝山湖」規模の水源確保を中讃広域で取り組む必要があると考える。 								
生活排水処理施設の整備	12.生活排水処理施設の整備	管きょやポンプ場、処理場など下水道施設を整備し、下水道普及率の向上に努めるとともに、下水道への接続を啓発し、水洗化率の向上を図る。また、合併処理浄化槽設置の促進を図るとともに、雨水幹線水路で越水による浸水防止するための対策を検討する。	判定	A 予定どおり(以上)である				上下水道部	36.公共下水道整備事業(継続) 37.浄化センター施設再構築整備事業(継続) 38.ポンプ場施設再構築整備事業(継続) 39.合併処理浄化槽設置推進事業(継続) 40.公共下水道改築・更新事業(継続)
		成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)	単位	基準値	実績値	目標値	1次評価		
		下水道普及率(公共下水道・農業集落排水施設を利用できる市民の割合)	%	公:43.5 農:2.2	公:44.0 農:2.7	公:48.8 農:2.9	施策の進捗について 平成20年度は、公共下水道をほぼ計画通り整備したことにより整備面積は予定通り向上したが、下水道普及率は旧丸亀市街地の人口減少(流出)に伴い停滞した。水洗化率は、公共下水道、及び農業集落排水施設双方とも予定通り向上している。また、合併処理浄化槽についても、予定通り設置促進している。 (参考)H19指標の実績: 公共44.2 農集2.7 公共90.6 農集69.9 3996		
		水洗化率(公共下水道・農業集落排水施設を利用できる区域で、接続している市民の割合)	%	公:88.5 農:75.6	公:92.2 農:77.0	公:91.0 農:82.0	今後の展開等について 公共下水道の整備と合併処理浄化槽の設置を中心に、生活排水処理施設の整備を進めたい。また、劣化、老朽化した処理施設、ポンプ施設及び管きょ施設の計画的な改築、更新及び耐震対策を図る。一方、農業集落排水事業については、管路整備が平成19年度完了しており、今後は水洗化率の向上を図る等の施策が必要である。		
合併処理浄化槽設置補助基数	基	3210	4377	5700					
外部評価	判定	A 予定どおり(以上)である				2次評価	所見・指示事項	【施策の進捗等について】 予定どおり進んでいる。	
意見・提言	<ul style="list-style-type: none"> 災害時に備え、施設の老朽化に伴う耐震補強にも力を入れてほしい。 公共下水道や農業集落排水施設で接続率が低いことは、引き続き深刻に受け止めるべき問題である。(利用されないのでは何のために多額のお金を投じて整備しているのかわからない。)未接続の1割ぐらいをやっと訪問したとのことであるが、10年はかかる。一旦工事をストップしてでも、部を挙げて一斉全戸訪問なり、少なくとも対象世帯全てに対し電話をかけるなどをすべきである。 								

平成21年度 施策評価結果一覧

政策体系	施策名	施策の概要	1次評価・2次評価		所管部	事務事業(1次評価の方向性)		
日常生活が営みやすくにぎわいと活力のあるまちを創る -2 活力とにぎわいに満ちたまち -2-1 地域産業が活発で、身近に働く場がある	13. 農林水産業の振興	担い手の育成・確保や園芸産地の確立、資源管理型漁業や栽培漁業の推進などにより、農林水産業の振興に努めるとともに、農道、水路、ため池などの土地改良施設や林道、漁港などを整備し、総合的な生産基盤の整備に取り組む。	判定	A 予定どおり(以上)である	都市経済部	県営農村振興総合整備事業() 41. 需給調整システム構築支援事業(継続) 42. 担い手経営活性化事業(改善) 43. 中山間地域等直接支払制度推進事業(終了) 44. 米麦生産振興対策事業(継続) 45. 農業経営支援確立事業(継続) 46. 園芸特産物振興対策事業(継続) 47. 土地改良事業維持管理適正化事業(継続) 48. 農地・水・環境保全向上対策事業(拡大) 49. 重要稚仔放流事業(継続) 50. 小手島漁港整備事業(継続)		
		成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)	単位	基準値			実績値	目標値
		認定農業者数(農業経営改善計画を作成し、市が認定した農業者の数) 担い手名簿の30%認定を目標	人	62			81	85
		水田の利用集積率(市の水田面積に占める認定農業者が利用する水田面積の割合)	%	5			8	15
外部評価	判定	A 予定どおり(以上)である	2次評価	判定	A 予定どおり(以上)である			
	意見・提言	・スクミリンゴ貝の薬剤補助は被害農家には歓迎すべきであるが、この貝は公有水面にも繁殖しており、公有水面での総合的な駆除体制などが未整備(一部農地・水・環境保全対策で外来種の駆除に要注外来生物となっている。)であり国・県などと対策を協議してそれぞれで役割分担すべきである。また、この貝の発生地域等からの耕土の搬出・搬入を制限するのも一手段ではないか。	所見・指示事項					
	14. 商工業と観光の振興	既存の社会資本を活かし、街なかの活性化と商業地の整備を図るとともに、これまで培われてきた臨海部の工業地域などの活力を維持しながら、地域経済の振興を図り、働く場の確保に努める。また、こんびら街道やお遍路さんなど地域特有の観光資源やうちわ、菊、桃などの特産品を活かし、観光の振興を図る。	判定	B やや遅れている(現時点で数値の向上が見られないが、今後成果が期待できる)	都市経済部	51. スペース114運営事業費(改善) 52. 商工会議所運営等補助事業(継続) 53. 商店街振興事業(継続) 54. 地場産業振興事業(改善) 55. 商工業振興融資事業(改善) 56. 観光振興事業(改善) 57. お城まつり開催事業(継続)		
		成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)	単位	基準値			実績値	目標値
		商店街の年間通行者数 毎年1万4千人(0.5%)程度の増加を目標	万人	221			176	228
		市を訪れた年間観光客数 毎年3万2千人(1.5%)程度の増加を目標	万人	204			168	220
外部評価	判定	B やや遅れているが、将来的に成果が見込まれる	2次評価	判定	B やや遅れているが、将来的に成果が見込まれる			
	意見・提言	・駅前再開発等商店街の活性化については、地元商店街・商工会議所・商工会の理解と協力なくしてはならない。 ・観光客の増加について、テーマパーク(ニューレオワールド)に大きく頼るのはリスクが大きいと考える。 ・観光客だけでなく、市民が楽しめる企画を日常的に実行して欲しい。 ・瀬戸内芸術祭などの好機をとらえて、観光振興に努力してほしい。 ・丸亀駅前の噴水が止まり、緑化はしてあるが華やかさに欠ける。プランターでの植栽などを検討してほしい。 ・華やかな駅前づくりに向け、広く市民の協力を求めつつ進めていくことも必要である。	所見・指示事項					
誰もが健康で安心して暮らせるまちを創る -1 災害や犯罪から人や地域をまもるまち -1-1 公共施設に十分な耐震性があり、地域の防災性が保たれている	15. 建物の耐震化の推進	小中学校などの教育施設をはじめ、市が管理する公共施設の耐震診断や耐震改修を行い、子どもたちや市民が安心して利用できる施設にする。	判定	B やや遅れている(現時点で数値の向上が見られないが、今後成果が期待できる)	健康福祉部 教育部	58. 小学校耐震補強事業(改善) 59. 中学校耐震補強事業(改善) 60. 幼稚園耐震補強事業(改善) 61. 保育所耐震補強事業(継続) 62. 市民体育館整備事業(継続)		
		成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)	単位	基準値			実績値	目標値
		学校施設の耐震診断率(小中学校施設のうち、耐震診断を終えた施設の割合) H23耐震診断完了を目標	%	62.3			100	100
		学校施設の耐震化率(小中学校施設のうち、耐震基準を満たしている施設の割合)	%	25.5			46.7	88.3
外部評価	判定	B やや遅れているが、将来的に成果が見込まれる	2次評価	判定	B やや遅れているが、将来的に成果が見込まれる			
	意見・提言	・危機管理対策は時代のすう勢であり、万全な対策が求められている。経済的理由と緊急度の尺度は容易ではないが、早急に実施すべき施策である。なかでも、教育現場の耐震化補強事業と海岸線保全事業は国との連携(予算面)をとりながら、急ぐべきである。 ・建物の耐震化については、予算規模も大きく市の重点課題として取り組んでいる施策と思われるが、小中学校に比べ幼稚園、保育所の整備が遅れているようなので、早急に進められたい。 ・施設の耐震化については、市長の公約であるから早急に率を高めてほしい。 ・公共施設も維持管理の時代に突入しており、耐震化はもとより、維持管理についてもしっかりとしたコンセプトや計画のもと、地道に取り組んでいくべきである。	所見・指示事項					

平成21年度 施策評価結果一覧

政策体系	施策名	施策の概要	1次評価・2次評価				所管部	事務事業(1次評価の方向性)		
誰もが健康で安心して暮らせるまちを創る -1 災害や犯罪から人や地域をまもるまち -1-1 公共施設に十分な耐震性があり、地域の防災性が保たれている	16. 港湾施設の耐震化と高潮対策	港湾施設の耐震性を高めるとともに、高潮対策として海岸保全施設を整備し、地震・大雨など災害時における海岸付近の安全の確保に努める。	判定	B やや遅れている(現時点で数値の向上が見られないが、今後成果が期待できる)				都市経済部	県営港湾整備事業() 63. 海岸保全事業(高潮対策)(改善)	
		成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)	単位	基準値	実績値	目標値	1次評価 今後の展開等について 異常気象が頻繁に起こり得る近年、海岸の防災力向上のため継続した事業展開が必要である。経費を抑え、最大限の効果が発揮できるよう今後においても効率的な施設整備の必要がある。平成21年度は国の経済対策を活用し、高潮対策として江の浦港、本島港の整備を前倒して実施する。			
		防潮壁の整備延長(高潮に備えて、かさ上げなどの改修を行った防護施設の延長)	毎年0.2km整備を目標	km	0.5	0.9				1.7
外部評価	判定	B やや遅れているが、将来的に成果が見込まれる				2次評価	判定	B やや遅れているが、将来的に成果が見込まれる		
	意見・提言	特になし					所見・指示事項	【施策の進捗について】 高潮に備えた防潮壁の整備について、目標値に対しやや遅れている状況から、判定をBとする。臨海部や島しょ部において、緊急性の高い箇所から早急に整備していくこと。		
	17. 河川、排水路、急傾斜地等の改修	浸水被害や土砂災害から市民の生命、財産を守るため、河川・排水路の改修や排水ポンプ場の整備、急傾斜地の崩壊防止対策などを進める。	判定	A 予定どおり(以上)である				都市経済部	大東川改修事業() 64. 排水路改修事業(継続) 65. 砂防改修事業(継続) 66. 急傾斜地崩壊防止対策事業(継続)	
		成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)	単位	基準値	実績値	目標値	1次評価 今後の展開等について 河川や排水路、急傾斜地等の整備は、災害時に市民の安全を守るために重要な事業であり、市民のニーズも非常に高い。今後も各事業を継続して実施し、施策の実現を図りたい。			
		急傾斜地崩壊危険区域(斜面角度30度以上かつ高さ5m以上のがけで、崩壊のおそれがあるとして知事が指定した区域)の改修率		%	7	11				11
		【補完指標】計画区域内の排水路の整備率		%	22	72				92
		【補完指標】計画区域内の流路工整備率		%	7	18				42
外部評価	判定	A 予定どおり(以上)である				2次評価	判定	A 予定どおり(以上)である		
	意見・提言	高潮対策と同様に、内陸部では急傾斜地や溜池、河川が多く、山崩れ、供水、河川の氾濫等危険性が高く改修・整備が急がれる。					所見・指示事項	【施策の進捗について】 予定どおり進んでいる。		
	18. 消防・防災体制の整備	消防庁舎など防災拠点を整備するとともに、消防防災設備や避難所などを整備し、災害時に迅速な対応ができる体制を整える。また、防災訓練などを積極的にを行い、防災に対する日常的な意識の向上を図る。	判定	B やや遅れている(現時点で数値の向上が見られないが、今後成果が期待できる)				消防本部	67. 消防本部庁舎等整備事業(継続) 68. 消防団屯所整備事業(継続) 69. 綾歌・飯山地区消火栓整備事業(改善) 70. 消防車両配備・更新事業(継続) 71. 防火水槽新設事業(継続) 72. 防災行政無線施設整備事業(拡大) 73. 救援物資備蓄推進事業(拡大)	
		成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)	単位	基準値	実績値	目標値	1次評価 今後の展開等について 耐震性防火水槽設置については、平成21年度で本島町山根児童館、川西町コミュニティセンター、綾歌町馬指駐車場、綾歌町富熊小学校の4箇所に設置予定である。消防団屯所については、建設予定地を関係部局と検討する予定である。本年度、消防・救急・防災の拠点となる新消防庁舎の完成を機に、危機管理体制を確立し、市民への啓発活動などを通じ市民、地域、行政が一体となって、さらに防災力を強化する必要がある。			
		耐震性防火水槽設置基数	毎年2基ずつの整備を目標	基	33	40				45
		改修済の消防団屯所の数	毎年1箇所の整備を目標	箇所	11	13				17
外部評価	判定	B やや遅れているが、将来的に成果が見込まれる				2次評価	判定	B やや遅れているが、将来的に成果が見込まれる		
	意見・提言	・市内全域(コミュニティ・自治会単位)で自主防災組織づくりを急ぐべきである。「自分の身は自分で守る」が基本であって、となり近所の協力が最も大切である。消防・警察・自衛隊・市当局は、被災後の対応であって、防災体制づくりではまず、小規模での組織づくりと市民一人ひとりの防災意識の向上が不可欠である。そのうえで、自助・共助・公助を考えるべきで、公助においては減災対策として常に有事を想定した事業を心がけるべきである。 ・駿河湾沖地震では、日頃の防災体制の整備が効を奏して、被害が少なかったようである。具体的に効果が実証されたもの(こと)は何か、情報を取得して、今後の本市の教訓や指針としてほしい。					所見・指示事項	【施策の進捗について】 消防団屯所の整備の遅れにより、判定をBとする。本年度、新消防庁舎が完成し、防災行政無線が全市に整備されることを機に、市の危機管理体制を強化するとともに、地域との連絡機能や協力体制を充実し、地域防災力のさらなる向上に努めること。 【個別事項】 < 救援物資備蓄推進事業 > 非常食、飲料水備蓄量の増加については再度検討し、他の備蓄品の充実や大型店舗との備蓄協定などをさらに進めるべきとの考えから、事業の方向については「改善」とする。		

平成21年度 施策評価結果一覧

政策体系	施策名	施策の概要				1次評価・2次評価		所管部	事務事業(1次評価の方向性)			
誰もが健康で安心して暮らせるまちを創る -1 災害や犯罪から人や地域をまもるまち -1-2 防災・救急体制が整っている	19.救急・救命体制の強化	救急隊員の資質向上と救急装備の充実を図り、救急救命率の向上に努める。また、AEDなどを用いた救命講習の開催など、応急手当の普及、啓発に努める。				1次評価	判定	A 予定どおり(以上)である	消防本部	74.救急救命士養成事業(継続) 75.応急手当普及、啓発事業(継続)		
		成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)					単位	基準値			実績値	目標値
		応急手当普及講習を受けた市民の数 毎年100人程度の増加を目標				人	1200	2757			2100	
外部評価		判定	A 予定どおり(以上)である			2次評価	判定	A 予定どおり(以上)である				
意見・提言		特になし			所見・指示事項		【施策の進捗等について】 ・予定どおり進んでいる。 ・成果指標「応急手当普及講習を受けた市民の数」について、実績値がすでに目標値を超えているので、目標値の見直しを検討すること。					
誰もが健康で安心して暮らせるまちを創る -1 災害や犯罪から人や地域をまもるまち -1-3 事故・犯罪の発生しにくい安全・安心なまちである	20.防犯対策の推進	防犯教室などを行い、市民の防犯意識の高揚を図るとともに、地域ぐるみの防犯活動を推進し、関係機関と連携を図りながら犯罪発生の防止に努める。				1次評価	判定	A 予定どおり(以上)である	生活環境部 教育部	76.防犯対策事業(継続) 77.少年育成センター活動事業(継続)		
		成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)					単位	基準値			実績値	目標値
		防犯活動(防犯パトロールなど)を月1回以上行っている地域・団体の数 H23時点で全コミュニティでの発足を目標				団体	11	16			17	
外部評価		判定	A 予定どおり(以上)である			2次評価	判定	A 予定どおり(以上)である				
意見・提言		・防犯対策の推進に異論はないが、警察行政に関して交通安全対策などの他の施策もあり、「防犯協会」、「交通対策協議会」が統合して事業が展開されれば補助金も有効活用され、対象となる市民にもメリットがあるのではないか。			所見・指示事項		【施策の進捗等について】 ・予定どおり進んでいる。 【個別事項】 ＜少年育成センター活動事業＞青少年の問題行動について、実態を十分に把握し、警察との連携のもと対策強化が必要との考えから、事業の方向については「改善」とする。					
21.消費者保護対策の推進	国・県消費者センターとの連携を図り、消費者団体の育成や消費生活情報の提供、消費者教育を推進する。				1次評価	判定	A 予定どおり(以上)である	生活環境部	78.消費者行政事業(拡大)			
	成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)					単位	基準値			実績値	目標値	
	消費生活にかかる年間犯罪件数				件	8	-			6		
	【補完指標】消費者セミナー(「くらしのセミナー」等)への年間参加者数				人	197	194			250		
外部評価		判定	A 予定どおり(以上)である			2次評価	判定	A 予定どおり(以上)である				
意見・提言		・これだけ消費者問題が頻発しているなかでの消費者セミナー回数、予算は決して十分とは言えない。この問題は、行政による消費者保護対策の啓発活動も大切であるが、それより大事なことは市民意識の向上である。現状の市民意識のもとで、これ以上の消費者セミナーが必要か疑問である。セミナーには「特定の人」しか参加しないので、広報紙での啓発活動の方が有効と考える。 ・携帯電話などを使った消費者をねらう犯罪も多く、学生にも情報発信して犯罪に遭わないための施策が必要だと考える。			所見・指示事項		【施策の進捗について】 予定どおり進んでいる。					

平成21年度 施策評価結果一覧

政策体系	施策名	施策の概要	1次評価・2次評価				所管部	事務事業(1次評価の方向性)	
誰もが健康で安心して暮らせるまちを創る -1 災害や犯罪から人や地域をまもるまち -1-3 事故・犯罪の発生にくい安全・安心なまちである	22.交通安全対策の推進	関係機関や学校などと連携を図り、キャンペーンなどによる交通安全意識の啓発や交通安全教育を効果的に推進する。	判定	A 予定どおり(以上)である				生活環境部	79.交通安全対策事業(継続)
		成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)	単位	基準値	実績値	目標値	1次評価 今後の展開等について		
		市内の年間交通事故発生件数 毎年1%程度の減少を目標	件	1665	1422	1300			
		外部評価 意見・提言	判定 A 予定どおり(以上)である 意見・提言 ・防犯対策の推進には異論はないが警察行政に関係する他の施策(交通安全対策)もあり「防犯協会」、「交通対策協議会」が統合して事業展開がされれば補助金も有効活用され、対象となる市民にも対策面でのメリットがあるのではないが。 ・9月から道路交通法が改定実施されるので、自転車の安全運転について一層の啓発を望む。				2次評価 所見・指示事項		
誰もが健康で安心して暮らせるまちを創る -2 住み慣れた地域で健やかに暮らせるまち -2-1 高齢者・障害者が健康で安心して生活できる	23.高齢者福祉の充実	地域包括支援センターを中心に、介護予防ケアマネジメント、総合相談支援事業、権利擁護事業など、包括的支援事業を進める。また、高齢者の在宅福祉サービスや日常生活支援、施設福祉サービスの充実などを図るとともに、高齢者の社会参画と生きがいづくりに努める。	判定	A 予定どおり(以上)である				健康福祉部	80.介護予防特定高齢者施策事業(継続) 81.介護予防一般高齢者施策事業(拡大) 82.総合相談支援等事業(継続) 83.包括的・継続的ケアマネジメント支援事業(継続) 84.地域支え合い事業(継続) 85.老人介護支援センター事業(継続) 86.介護用品等購入助成事業(継続) 87.綾歌健康づくりふれあいセンター事業(改善) 88.老人保護措置(継続) 89.老人生きがい対策事業(継続) 90.高齢者就業機会確保事業(継続) 91.老人クラブ運営事業(継続)
		成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)	単位	基準値	実績値	目標値	1次評価 今後の展開等について		
		介護予防により要介護者が減少した数(介護予防しなかった場合の要介護者の将来予想数から介護予防事業後の要介護者数を差し引いた数)	人	0	75	314			
		外部評価 意見・提言	判定 A 予定どおり(以上)である 意見・提言 ・高齢者・障害者福祉に関して多くの事業が展開され、多額の税金等が投入されている。現在はそれ相応の予算が組まれているが、5年後、10年後の高齢化に市として対応できるのか、社会的弱者を救済するのは、国・地方自治体の責務であるが、将来高齢人口の増加は人口動態からみると確実であり、一方、経済の活性化は今後難しいことが予想される。社会保障制度とはいえ、必要に応じて見直す時期にきていると考える。 ・高齢者は加齢とともに事故や事件の当事者となる割合が高くなっており、関係部局の連携により施策・事務事業を展開することが必要である。また、個人情報保護法の関係により市役所から要支援者の情報が民間の行政協力者やボランティアに伝わりにくくなっており、各事業を円滑に推進する上で市役所職員での対応が必然的に多くなっているように思う。運用上の改善などの働きかけも必要ではないか。 ・高齢者の社会参画と生きがいづくりのために、事業所との連携もできるのではないか。				2次評価 所見・指示事項		
障害者が家庭や地域で安心して生活できるように、在宅福祉サービスの充実や医療費の助成などの生活支援を行う。また障害者の自立支援、社会参加を進める。	24.障害者福祉の充実	成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)	単位	基準値	実績値	目標値	1次評価 今後の展開等について		
		施設に入所・入院していた障害者が、地域での生活に戻ることができるようになった人数	人	0	8	18			
		外部評価 意見・提言	判定 A 予定どおり(以上)である 意見・提言 ・高齢者・障害者福祉に関して多くの事業が展開され、多額の税金等が投入されている。現在はそれ相応の予算が組まれているが、5年後、10年後の高齢化に市として対応できるのか、社会的弱者を救済するのは、国・地方自治体の責務であるが、将来高齢人口の増加は人口動態からみると確実であり、一方、経済の活性化は今後難しいことが予想される。社会保障制度とはいえ、必要に応じて見直す時期にきていると考える。 ・高齢者は加齢とともに事故や事件の当事者となる割合が高くなっており、関係部局の連携により施策・事務事業を展開することが必要である。また、個人情報保護法の関係により市役所から要支援者の情報が民間の行政協力者やボランティアに伝わりにくくなっており、各事業を円滑に推進する上で市役所職員での対応が必然的に多くなっているように思う。運用上の改善などの働きかけも必要ではないか。 ・高齢者の社会参画と生きがいづくりのために、事業所との連携もできるのではないか。				2次評価 所見・指示事項	判定 A 予定どおり(以上)である 所見・指示事項 【施策の進捗等について】 予定どおり進んでいる。	

平成21年度 施策評価結果一覧

政策体系	施策名	施策の概要	1次評価・2次評価				所管部	事務事業(1次評価の方向性)	
誰もが健康で安心して暮らせるまちを創る -2 住み慣れた地域で健やかに暮らせるまち -2-2 市民がともに支え合い、地域の保健・福祉が充実している	25. 地域福祉の充実	すべての人が互いに思いやり、見守る地域福祉を充実し、福祉活動への市民の積極的な参加意識を啓発する。また、地域福祉活動を行うボランティア・NPOなどの団体の育成に努める。	判定	B やや遅れている(現時点で数値の向上が見られないが、今後成果が期待できる)				健康福祉部	101.福祉保健推進委員見守り事業(改善)
		成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)	単位	基準値	実績値	目標値	1次評価		
		福祉保健推進委員(担当地区の家庭(20世帯～50世帯)を訪問して要望や相談を聞き、援助の必要な人の早期発見に努めたりする人)の数	人	1500	1379	1600			
判定	C かなり遅れている				2次評価				
意見・提言	「福祉保健推進委員見守り事業」について、平成20年9月にかなり厳しく、かつ詳細な本委員会からの外部意見がなされる中で、また自らも今回の1次評価で「かなり課題もある」とする中で、特段の見直しを講じることなく、平成21年4月から2か年度も期間の委嘱がなされている。今後の早急かつ真剣な議論と検討を改めて求める。見守り事業の根底に流れるものは人間の善意であり、善意をどう引き出すかのシステム作りが必要である。現状の組織が機能していないとすれば、早急に元から改善すべきである。善意が基本といえども、善意を引き出すためには動機づけが必要で、新たな組織づくりをどうするか、行政の手腕の見せどころである。個人情報保護法の関係により、市役所から民間の行政協力者やボランティアなどに要支援者の情報等が伝わりにくく協力を得られにくい状況となっているため、各事業を円滑に推進するには、市役所職員での対応が必然的に多くなるのではないかと。福祉保健推進委員・民生児童委員・母子愛育班・福祉ママ等、福祉関連諸団体の再編・見直しを図り(兼任されている方が多い)団体のネーミングもわかりやすく、親しみやすいものに変えてみてはどうか。委員への研修内容を詳細にするなど、充実した制度としてほしい。								
	26. 地域保健の充実	妊婦や乳幼児から高齢者に至るまでの各種健康診査を充実し、早期発見と早期治療を推進する。また、健康づくりの意識の高揚を図り、市民の自主的健康づくりを進める。	判定	B やや遅れている(現時点で数値の向上が見られないが、今後成果が期待できる)				健康福祉部 生活環境部	102.1歳6ヶ月児健康診査(継続) 103.3ヵ月児健康診査(継続) 104.3歳児健康診査(継続) 105.妊婦健康診査(拡大) 106.乳児健康診査(継続) 107.40歳以上健康診査(継続) 108.特定健康診査(改善) 109.特定保健指導(改善) 110.母子保健相談・指導事業(継続) 111.育児等健康支援事業(継続) 112.児童ふれあい交流促進事業(縮小) 113.健康教育・相談事業(継続) 114.ヘルスプラン推進事業(継続) 115.機能訓練事業(継続)
		成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)	単位	基準値	実績値	目標値	1次評価		
		基本健康診査受診率(受診した人数/受診対象者(40歳以上)数) 毎年1～2%程度の増加を目標	%	37.2	(移行)	45			
		各種がん検診受診率(受診した人数/受診対象者(40歳以上、子宮がん検診は20歳以上)数) 毎年2%程度の増加を目標	%	19.2	20	30			
		【補充指標】特定健診受診率(受診者数/対象者数)	%	32(H20)	32	60			
【補充指標】特定保健指導実施率(動機づけ支援及び積極的支援利用者数/動機づけ支援及び積極的支援の対象とされた人数)	%	11(H20)	11	40	2次評価				
判定	B やや遅れているが、将来的に成果が見込まれる								
意見・提言	市民が健康で生き甲斐をもって生活できるよう、きめ細かい支援をのぞむ。								
心豊かな人が育ち誰もが生きがいを感ずるまちを創る -1 互いの人権を尊重し、個性と能力が発揮できるまち -1-1 市民の人権が尊重されている	27. 人権尊重社会の実現	市民一人ひとりの人権が尊重されるまちをめざし、国・県の「人権教育・啓発に関する基本計画」との連携を図り、本市の定めた「人権教育・啓発に関する基本指針」に基づき、人権教育・啓発をあらゆる機会を通じて推進し、人権・同和問題の早期解決をめざす。また、人権相談など人権擁護活動を推進する。	判定	A 予定どおり(以上)である				生活環境部	117.人権擁護事業(継続) 118.人権問題推進活動援助事業(継続) 119.教育・職業相談員設置事業(継続) 120.社会福祉施設管理運営事業(継続) 121.人権啓発促進事業(継続)
		成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)	単位	基準値	実績値	目標値	1次評価		
		過去1年間に講演会、研修会などに参加したことの市民の割合(平成17年2月人権・同和問題意識調査)	%	22.8(H17.2)	-	35			
		基本的な人権が憲法で保障されていることを知っている市民の割合(平成17年2月人権・同和問題意識調査)	人	88.8(H17.2)	-	95			
判定	A 予定どおり(以上)である								
意見・提言	男女共同参画室その他の関連機関と連携した事業を期待する。								

平成21年度 施策評価結果一覧

政策体系	施策名	施策の概要	1次評価・2次評価				所管部	事務事業(1次評価の方向性)	
心豊かな人が育ち誰もが生きがいを感じるまちを創る -1 互いの人権を尊重し、個性と能力が発揮できるまち -1-2 男女が対等に社会に参画し、ともにいきいきと暮らしている	28.男女共同参画社会の実現	男女の人権を尊重し、社会・職場・家庭などあらゆる分野において、男女が対等に参画できる社会をめざす。	判定	B やや遅れている(現時点で数値の向上が見られないが、今後成果が期待できる)				企画財政部	122.男女の対等な参画推進事業(継続)
		成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)	単位	基準値	実績値	目標値	1次評価		
		市が設置する審議会等における女性委員の割合	%	20.6 (H18.4)	27.3 (H21.4)	40 (H22.4)			
		市が設置する審議会のなかで女性がない審議会の割合	%	32.5	14.6	0			
		判定	B やや遅れているが、将来的に成果が見込まれる				2次評価		
外部評価 意見・提言	・男女共同参画推進条例が施行され、プランの見直しもされる時、機会をとらえて、検証と推進のための展望をもってもらいたい。								
心豊かな人が育ち誰もが生きがいを感じるまちを創る -2 元気で心豊かな子どもたちが育つまち -2-1 人に対するやさしさやマナー・豊かな感性が育っている	29.子どもの感性の育成	親子のふれ合いや世代間交流を大切にしたい地域での活動を推進する。また、子どもたちが優れた芸術や図書などにふれることができる環境を整え、子どもたちの感性の育成に努める。	判定	A 予定どおり(以上)である				教育部	123.子ども図書購入事業(継続) 124.ブックスタート事業(継続) 125.芸術鑑賞教室開催事業(拡大) 126.少年教育事業(継続)
		成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)	単位	基準値	実績値	目標値	1次評価		
		市立図書館の児童図書数 毎年購入図書(10000冊程度)の1/3を児童図書とする	冊	123000	137997	140000			
		ブックスタート事業(乳幼児と保護者に絵本と手引書を手渡し、読み聞かせや本の大切さについて説明などを行う事業)にボランティアとして関わる人の数	人	5	11	8			
		年に3回以上、親子のふれあいや世代間交流を図る行事が開催されている校区子ども会数	団体	3	5	7	2次評価		
子ども会活動などの指導者養成を目的とした研修の年間開催回数	回	1	1	3					
判定	A 予定どおり(以上)である				2次評価				
外部評価 意見・提言	・人間形成のうえで最も大切なことは、幼児期の教育であると考え。まちづくりの原点は心豊かな人づくりからであり、教育現場と家庭、地域、また世代間の交流に努めることである。 ・「丸亀市子ども読書活動推進計画」に掲げた内容について実施できていることと、できていないことを検証し、次期計画が実りあるものになるように努力してほしい。								
心豊かな人が育ち誰もが生きがいを感じるまちを創る -2 元気で心豊かな子どもたちが育つまち -2-2 子どもたちの学習する環境が整っている	30.学校教育の充実	学力の向上と人間性・社会性の基礎を養うために、教育内容の充実を図る。また、校舎や園舎などを計画的に増改築し、安全でゆとりのある誰もが使いやすい学校施設を整備する。さらに、学校給食の充実と衛生管理の徹底を図るため、学校給食センターを統合・新築するとともに、地産地消の推進と食文化の継承に取り組む。	判定	A 予定どおり(以上)である				教育部	127.小学校施設増改築事業(継続) 128.中学校施設増改築事業(継続) 129.幼稚園施設増改築事業(継続) 130.小学校学力調査(継続) 131.中学校学力調査(継続) 132.新学校給食センター新築移転整備事業(継続) 133.丸亀っこの食育推進事業(継続)
		成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)	単位	基準値	実績値	目標値	1次評価		
		老朽化や教室不足のための増改築が完了した学校の割合	%	74.3	82.9	88.6			
		学力調査正答率(市の小中学校の学力調査において、教科別・学年別の正答率平均値が期待正答率を上回った割合)	%	75	82	80			
		給食の残菜率(生徒が食べ残した給食の割合)	%	小:16 中:19	小:5.8 中:7.6	小:10 中:12	2次評価		
児童・生徒の朝食欠食率(小中学校児童・生徒が朝食を週2回以上欠食する率)	%	小:15 中:20	小:- 中:-	小:5 中:10					
判定	A 予定どおり(以上)である				2次評価				
外部評価 意見・提言	・新学校給食センターでの6500食について、農産物(主に野菜、果物)の地産地消率を高めるべく早急な対応が必要ではないか、新学校給食センターの供用開始まで6ヶ月余りと余裕がなく、JA香川県仲多度地区本部並びに丸亀市内のJA各支店農産物生産者部会に説明・協議し協力を再度要請し、地産地消による農産物の円滑な供給が必要である。 ・子どもたちがこれからの社会を生き抜く力、生きた学力を身につけるための教育のあり方を考えてほしい。その基礎力を育む学校図書館が、読書センター・学習情報センターとして十分に機能を発揮するために、「丸亀市子ども読書活動推進計画」にも明記してある学校図書館指導員の配置を計画的に増やしてほしい。								

平成21年度 施策評価結果一覧

政策体系	施策名	施策の概要	1次評価・2次評価				所管部	事務事業(1次評価の方向性)					
心豊かな人が育ち誰もが生きがいを感じるまちを創る -2 元気で心豊かな子どもたちが育つまち -2-3 安心して子育てができる環境が整っている	31.子育て支援の推進	地域子育て支援センターによる子育てに関する相談事業や講習会の開催、さらに延長保育や一時保育などを推進し、安心して子育てができる環境づくりに努める。	判定	A 予定どおり(以上)である				健康福祉部 教育部	134.地域子育て支援センター事業(拡大) 135.延長保育事業(拡大) 136.一時保育事業(拡大) 137.休日保育事業(改善) 138.放課後留守家庭児童会事業(改善) 139.放課後子ども教室事業(改善) 140.家庭教育事業(継続) 141.乳幼児医療給付事業(拡大)				
		成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)	単位	基準値	実績値	目標値	1次評価						
		地域子育て支援センターの設置箇所数	箇所	6	6	7							
		放課後留守家庭児童会の待機児童数	人	0	0	0							
		休日保育実施箇所数	箇所	1	1	2							
		一時保育実施箇所数	箇所	7	7	9							
特定保育実施箇所数	箇所	0	0	2	今後の展開等について	保育事業については、市民の意見を踏まえながら、保育ニーズに応じたサービスが提供できる環境づくりが必要である。また、放課後留守家庭児童会については、就労等の理由により保護者等が昼間家庭に不在の児童を安心できる環境で保育し、健全な育成が図られるよう継続して実施する必要がある。							
外部評価	判定	A 予定どおり(以上)である				2次評価	判定	A 予定どおり(以上)である					
	意見・提言	・保育所の移転、統合、民営化などについては、地域住民や利用者、専門家の意見を聞き、慎重に進めてほしい。 ・保育所が行う地域子育て支援センター、保健師が行う子育て支援以外は、他市と比較しても、多様なニーズに合う子育て支援が進んでいない。つどいの広場や子育て相談など、多様なニーズに対して、いろんな選択が出来る、きめ細かい子育て支援を充実させてほしい。				所見・指示事項	【施策の進捗等について】 予定どおり進んでいる。 【個別事項】 保育サービスに関する個々の事業については、現在「丸亀市保育所民営化等方針」の内容・考え方を市民に説明しているところである。今後市民のニーズを十分に把握しながら、市全体としてサービスのあり方を決定していく必要があるため、現時点では事業の方向を「現状のまま継続」とする。						
心豊かな人が育ち誰もが生きがいを感じるまちを創る -3 市民が生きがいをもって暮らせるまち -3-1 芸術・文化活動や人と人の交流を通じ、生きがいを感じている	32.芸術文化活動等の推進	美術館、資料館、図書館などの資料の充実を図り、優れた芸術や豊富な図書などに接することができる環境を整える。また、芸術・文化活動や芸術祭など活動発表の場を充実し、市民会館や綾歌総合文化会館での自主文化事業など地域に根づいた芸術・文化の振興に努める。	判定	A 予定どおり(以上)である				教育部	142.文化芸術振興事業(継続) 143.美術館管理運営事業(継続) 144.市民会館・綾歌総合文化会館管理運営事業(継続) 145.市民講座開設事業(継続) 146.図書館運営事業(継続)				
		成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)	単位	基準値	実績値	目標値	1次評価						
		市立図書館の図書数	冊	430000	466979	480000							
		市立図書館の年間利用者数	人	120000	137612	130000							
		市立図書館の登録者数	人	15000	31231	30000							
		「芸術・文化が振興されている」と感じる市民の割合(平成17年9月市民アンケート調査)	%	45(H17.9)	-	48				今後の展開等について	文化の創造は市民が行うほうが自然であることや市民文化の底上げが様々な分野に影響を与え、その結果が地域の発展につながっていくことから、文化振興を推進していくに当たっては、「市民が主役」と位置づけ、各種施策を講じる。図書館運営については、今後も、適正な選書により図書購入を行い、利用者数、登録者数の増加を図る。		
生涯学習人材バンクの登録者数	人	300	220	350	2次評価	判定	A 予定どおり(以上)である						
外部評価	判定	A 予定どおり(以上)である				所見・指示事項	【施策の進捗等について】 ・予定どおり進んでいる。 ・成果指標「市立図書館の年間利用者数」について、実績値がすでに目標値を超えているので、目標値の見直しを検討すること。 【個別事項】 <美術館管理運営事業> 昨年度の入館者数が基準値(平成18年度時点)と比べ18000人近く減少しており、もう少し市民が親しめる企画の検討が必要との考えから、事業の方向については「改善」とする。 <図書館運営事業> 3館それぞれの特色を活かし、市民の利便性を考慮しながら、より充実したサービスが提供できるよう、運営方法を検討すること。						
	意見・提言	・文化施策は、すぐに結果が見えないことが多いが、とても大事だと思う。市民が主役となって創造していくための環境整備には、市が責任をもって物的・人的投資を惜しまず、積極的に取り組んでほしい。											
	33.国際交流の推進	国際交流協会などと連携し、海外都市交流や国際文化交流活動を進める。また、在住する外国人に生活情報を提供するなど、外国人が生活しやすい環境づくりに努める。	判定	B やや遅れている(現時点で数値の向上が見られないが、今後成果が期待できる)				総務部	147.都市交流推進事業(継続) 148.外国人受入環境整備事業(継続)				
		成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)	単位	基準値	実績値	目標値	1次評価						
		学生の海外交流都市への派遣者数(累計)	人	278	318	370							
										今後の展開等について	海外都市との交流については、募集対象を中学生全学年に拡大することにより、参加者の増加につながると思われるため今後も継続したい。また、本市在住の外国人は年々増加しており、外国人が生活しやすい環境を整える必要性が高まっている。今後、海外都市との交流を進めるとともに、外国人受入環境整備し、国際交流の推進を図りたい。		
										2次評価	判定	B やや遅れているが、将来的に成果が見込まれる	
										所見・指示事項	【施策の進捗等について】 昨年度は、中国・張家港市からの受入の年であったが、地震等中国国内の事情により実現しなかったことから、施策の進捗については判定をBとする。		
外部評価	判定	B やや遅れているが、将来的に成果が見込まれる											
	意見・提言	・現在国際交流への取組は、在住外国人の対応と中学生の派遣事業のみのように思われる。「四国職業能力大学校」についても存続が先行き不透明であり、新たな大学誘致を考えるなど、世界の中の日本(丸亀)を考えた時、子どもたちをはじめ市民が夢や希望を持っているよう、新たな取り組みが必要である。											

平成21年度 施策評価結果一覧

政策体系	施策名	施策の概要	1次評価・2次評価				所管部	事務事業(1次評価の方向性)
心豊かな人が育ち誰もが生きがいを感じるまちを創る -3 市民が生きがいをもって暮らせるまち -3-2 スポーツ・レクリエーション活動を通じ、生きがいを感じている	34.スポーツ・レクリエーション活動の振興	市民のスポーツに対する関心と意欲を高め、スポーツ施設の充実と利用の促進に努める。また、スポーツ活動を推進し、関係団体の育成と相互の交流を促進する。	判定 B やや遅れている(現時点で数値の向上が見られないが、今後成果が期待できる)				都市経済部 教育部	149.総合運動公園整備事業(継続) 150.香川丸亀国際ハーフマラソン大会開催事業(継続) 151.市民体育推進事業(継続) 152.市民体育祭開催事業(継続) 153.体育協会育成事業(継続) 154.体育施設開放事業(継続) 155.少年スポーツ活動育成事業(継続)
		成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)	単位	基準値	実績値	目標値		
		市のスポーツ施設の年間利用件数 毎年500件の増加を目標	件	40000	34883	42000		
		市のスポーツ施設の年間利用者数 毎年10000人の増加を目標	人	607000	602685	667000		
		今後の展開等について	スポーツ施設の利用を促進し、市民の体力向上・健康の保持増進及び生涯スポーツ人口の底辺拡大を図る必要がある。また、香川丸亀ハーフマラソンは、平成20年度から国際大会となっており、より参加者にとって楽しんでもらえる魅力ある大会運営と香川県、丸亀市を全国にPRできるような大会にしていく必要がある。					
外部評価	判定	判定 B やや遅れているが、将来的に成果が見込まれる				所見・指示事項	【施策の進捗等について】 スポーツ施設の利用者数が、目標に対しあまり増加していないため、施策の進捗については判定をBとする。	
意見・提言	特になし							
自治・自立のまちを創る -1 市民がつくるまち -1-1 市政に関する情報が共有されている	35.情報の発信と地域情報化の推進	誰もが市政の情報を理解できるように、広報紙やホームページ、さらにはケーブルテレビなどを活用し、新しい情報を迅速に提供していく。また、市政に関する重要な事項の説明や、きめ細かな情報の提供については、直接対話の機会をもうける。	判定 A 予定どおり(以上)である				総務部 企画財政部	156.広報紙発行事業(改善) 157.ホームページ運営事業(継続) 158.ケーブルテレビ促進事業(改善)
		成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)	単位	基準値	実績値	目標値		
		ホームページの年間アクセス件数(ホームページのトップページにアクセスした年間の件数) 月平均約30000件のアクセスを目標	件	310000	407453	400000		
		今後の展開等について	ホームページ、広報紙、CATVを情報発信における重要な手段として位置づけ、個々の特長を活かしながら市政や地域に関する情報を効果的に発信することで、市政の情報を市民と共有するとともに、地域活動の活性化につなげたい。また、平成23年度目標を410,000へと変更したい。					
		外部評価	判定	判定 A 予定どおり(以上)である				
意見・提言	特になし							
自治・自立のまちを創る -1 市民がつくるまち -1-2 市民が市政に参画している	36.市民参画の促進	市政の情報を発信し市政運営への関心を高め、適切な手法を用いて、市民からの提案や意向を把握し、政策立案や施策事業の計画づくりに反映する。	判定 B やや遅れている(現時点で数値の向上が見られないが、今後成果が期待できる)				総務部	159.広聴活動事業(改善)
		成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)	単位	基準値	実績値	目標値		
		タウンミーティング(市長と語る会)の年間参加者数 17のコミュニティで開催し、1会場当たり50~60人の参加を目標	人	0	256	950		
		今後の展開等について	平成19年度の反省点から、個別面談を重視したコミュニティセンター市長室へとリニューアルした。今後は、これまでにまちづくり懇談会、タウンミーティング、コミュニティセンター市長室での意見や提言を実現して段階にある。その点を踏まえて、会のあり方を検討したい。					
		外部評価	判定	判定 C かなり遅れている				
意見・提言	特になし							

平成21年度 施策評価結果一覧

政策体系	施策名	施策の概要	1次評価・2次評価		所管部	事務事業(1次評価の方向性)																				
自治・自立のまちを創る -1 市民がつくるまち -1-3 市民と市の協働によりまちがつけられている	37.市民活動団体の支援・充実	市民活動団体と行政、さらには市民活動団体相互の連携を図り、よりいっそう充実した市民活動が活発に行われるための環境整備と体制づくりを行なう。	判定	B やや遅れている(現時点で数値の向上が見られないが、今後成果が期待できる)	生活環境部	160.市民活動支援センター事業(改善) 161.市民活動団体ネットワーク構築事業(継続)																				
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)</th> <th>単位</th> <th>基準値</th> <th>実績値</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ネットワークに登録した市民活動団体数(基準値は、H17末現在で市が把握している団体数)</td> <td>H20にネットワークを構築し、H23に160団体の登録を目標</td> <td>団体</td> <td>(84)</td> <td>74</td> <td>160</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)				単位	基準値	実績値	目標値	ネットワークに登録した市民活動団体数(基準値は、H17末現在で市が把握している団体数)	H20にネットワークを構築し、H23に160団体の登録を目標	団体	(84)	74	160			1次評価	<p>施策の進捗について</p> <p>平成20年度にネットワークを構築し、75団体が登録された。(参考)H19指標の実績: なし</p> <p>今後の展開等について</p> <p>今後順次市民活動のネットワークの拡大を図り活動の輪を広げる必要がある。そのためには、活動の拠点となる「市民活動推進センター」を早期に設置する必要がある。</p>						
成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)				単位	基準値	実績値	目標値																			
ネットワークに登録した市民活動団体数(基準値は、H17末現在で市が把握している団体数)	H20にネットワークを構築し、H23に160団体の登録を目標	団体	(84)	74	160																					
	外部評価	<p>判定</p> <p>C かなり遅れている</p> <p>意見・提言</p> <p>・「市民活動推進センター」の設置が遅れている。市民(団体)・コミュニティ・行政の連携、交流拠点の整備が急がれる。 ・「市民活動推進センター」の運営形態については、平成18年から2年余りかけて「協働推進条例策定検討委員会」、「協働推進計画検討委員会」等において充分検討している。まずは、設置場所を決めることが急がれており、いつまでも検討中としないで欲しい。</p>	2次評価	<p>判定</p> <p>B やや遅れているが、将来的に成果が見込まれる</p> <p>所見・指示事項</p> <p>【施策の進捗等について】 昨年度は、NPOなど74の団体が市に登録され、市民活動のネットワークが築かれつつあるが、拠点となる市民活動推進センターの設置が遅れていることから、判定をBとする。</p>																						
	38.協働事業の推進	市民活動団体の専門性を活かし、行政と対等な立場で事業を展開していくため、双方提案による協働事業を進める。	判定	B やや遅れている(現時点で数値の向上が見られないが、今後成果が期待できる)	生活環境部	162.協働事業(改善)																				
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)</th> <th>単位</th> <th>基準値</th> <th>実績値</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>公募型協働事業実施数(市民活動団体などからの提案と市からの提案による協働事業の実施数)</td> <td>毎年新たに2以上の協働事業の実施を目標</td> <td>件</td> <td>4</td> <td>13</td> <td>16</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>協働促進事業実施数(市が実施している事業の一部を、H17以降で市民活動団体が担う数)</td> <td>市の各部署の提案により、H19から毎年10件程度の実施を目標</td> <td>件</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>48</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)				単位	基準値	実績値	目標値	公募型協働事業実施数(市民活動団体などからの提案と市からの提案による協働事業の実施数)	毎年新たに2以上の協働事業の実施を目標	件	4	13	16			協働促進事業実施数(市が実施している事業の一部を、H17以降で市民活動団体が担う数)	市の各部署の提案により、H19から毎年10件程度の実施を目標	件	0	2	48		
成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)				単位	基準値	実績値	目標値																			
公募型協働事業実施数(市民活動団体などからの提案と市からの提案による協働事業の実施数)	毎年新たに2以上の協働事業の実施を目標	件	4	13	16																					
協働促進事業実施数(市が実施している事業の一部を、H17以降で市民活動団体が担う数)	市の各部署の提案により、H19から毎年10件程度の実施を目標	件	0	2	48																					
	外部評価	<p>判定</p> <p>C かなり遅れている</p> <p>意見・提言</p> <p>・「協働促進事業」が遅れており、市民からの提案(提案公募型協働事業)だけでなく、市からの積極的な働きかけが重要と考える。 ・市役所の担当課だけで推進することが困難な業務でも、市民と協働することにより課題解決が可能となることも多いと思われる(たとえば、丸亀駅前植栽など)。このような取組を進めるためには、市民協働の窓口となるコーディネータが必要である。 ・見方を変えると、市役所は良きパートナーたり得ないと逆に市民から思われている一面もあるわけであり、「協働」を進めていくときに、市民サイドから見て市役所に何が欠けているかについて「教えを請う」スタンスも重要。意見交換会やアンケート調査などで、自由に指摘してもらって、真剣に市民の生の声を把握することも大切である。</p>	2次評価	<p>判定</p> <p>B やや遅れているが、将来的に成果が見込まれる</p> <p>所見・指示事項</p> <p>【施策の進捗等について】 昨年度は、提案公募型協働事業として2事業が実施されたが、一方、市の側からの提案による協働事業が積極的に実施されていない状況から、判定についてはBとする。</p>																						
自治・自立のまちを創る -1 市民がつくるまち -1-4 地域コミュニティが自らまちづくりに取り組んでいる	39.コミュニティ活動の活性化	市民の連帯意識を高めるため、地域活動の拠点となるコミュニティ施設を整備するとともに、地域住民の交流活動の活性化に努める。また、自治会活動を支援し、自治会への加入促進に努める。	判定	A 予定どおり(以上)である	生活環境部	163.コミュニティセンター施設整備事業(改善) 164.コミュニティまちづくり計画策定事業(拡大)																				
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)</th> <th>単位</th> <th>基準値</th> <th>実績値</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コミュニティセンターの年間利用者数</td> <td>毎年10000人程度の利用者の増加を目標</td> <td>人</td> <td>212000</td> <td>223263</td> <td>277000</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)				単位	基準値	実績値	目標値	コミュニティセンターの年間利用者数	毎年10000人程度の利用者の増加を目標	人	212000	223263	277000			1次評価	<p>施策の進捗について</p> <p>平成20年度は、コミュニティセンターを改修した地域があったため、コミュニティセンターの年間利用者数については、前年度より減少した。(参考)H19指標の実績: 267186</p> <p>今後の展開等について</p> <p>現在4地区において「地域コミュニティまちづくり計画」の策定を終えているが、地域が主体となり地域の特性を活かしたまちづくりを進めるため、さらに全ての地域で計画が策定されるよう推進する必要がある。また、計画策定の促進と地域活動を支援するため、平成21年度から計画に盛り込まれた取組に対する市の補助制度を設けることとした。</p>						
成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)				単位	基準値	実績値	目標値																			
コミュニティセンターの年間利用者数	毎年10000人程度の利用者の増加を目標	人	212000	223263	277000																					
	外部評価	<p>判定</p> <p>B やや遅れているが、将来的に成果が見込まれる</p> <p>意見・提言</p> <p>・コミュニティセンターの利用について、一部地域でセンターの改修工事が影響したとはいえ、市全体で前年度に比べ大幅に利用者数が減少している状況や、コミュニティまちづくり計画について、平成21年度には17地区すべてのコミュニティで計画が策定されることを目標にしているにも関わらず、これまでに4地区だけが策定済となっている状況を見る限り、施策の進捗がA評価(予定どおり(以上)に)進捗している)とはいえない。 ・コミュニティセンターの年間利用者数が昨年と比較して減少している。センターの所長の熱意も重要であり、所長は地域住民に徹して校区発展の先導者になる責任がある旨を、所長会等においても指導すべきである。</p>	2次評価	<p>判定</p> <p>A 予定どおり(以上)である</p> <p>所見・指示事項</p> <p>【施策の進捗等について】 予定どおり進んでいる。</p>																						

平成21年度 施策評価結果一覧

政策体系	施策名	施策の概要	1次評価・2次評価		所管部	事務事業(1次評価の方向性)																
自治・自立のまちを創る -2 市民とともに改革するまち -2-2 効率的な行政システムが構築されている	40.定員管理の適正化と人材育成	合併の効果を活かしながら、事務事業の見直しや民間委託などを行い、職員数の削減を図る。また、多様化する市民ニーズの変化に柔軟かつ的確に対応できる職員を育成するため、「人材育成基本方針」に基づき、職員研修などを充実し、総合的な人材育成に努める。	判定	A 予定どおり(以上)である	総務部	165.職員研修(継続)																
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)</th> <th>単位</th> <th>基準値</th> <th>実績値</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市役所の職員数</td> <td>退職者原則不補充によりH22年4月現在で基準値より18.5%削減を目標</td> <td>人</td> <td>1203(H17.4)</td> <td>990(H21.4)</td> <td>980(H22.4)</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)				単位	基準値	実績値	目標値	市役所の職員数	退職者原則不補充によりH22年4月現在で基準値より18.5%削減を目標	人	1203(H17.4)	990(H21.4)	980(H22.4)			1次評価 施策の進捗について 勤奨退職者等により、職員数の削減は、前倒しとなっている。(参考)H19指標の実績: 1044(H20.4)	1次評価 今後の展開等について 定員適正化計画における目標数値980人体制へ向け、前倒しとなっているが、今後とも民間委託や事務事業の見直しを進め、職種等により必要な職員は採用しながら、スリムで効率的な体制に向け取り組んでいきたい。		
成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)				単位	基準値	実績値	目標値															
市役所の職員数	退職者原則不補充によりH22年4月現在で基準値より18.5%削減を目標	人	1203(H17.4)	990(H21.4)	980(H22.4)																	
		外部評価 意見・提言 職員の意識改革が最も大切であり、徹底的に意識改革に努めるべきである。例えば、職員全員ローテーションを組んで民間へ派遣し、民間の厳しさを体験してもらい本来の業務に活かすべく知恵を出し合い、共に汗をかくことが人材育成、定員適正化等全ての問題解決につながるものと考え。総合的な人材育成も大切だが、図書館のように専門の司書が職場で長く経験を積むことによって、すぐれた司書として育成されていく職場もあると思う。スキルを継承していくため、若い人材育成が急務ではないか。図書館では司書資格を有した非常勤職員が不可欠の活躍をしているが、雇用期限がある。図書館に限らず他の部署でも非常勤職員に頼らざるおえない現状がある。非常勤職員の継続雇用と段階的昇給を取り入れている自治体もあるので、雇用のあり方の見直しを検討してほしい。「丸亀市定員適正化計画」での職員数(正規職員数)については計画通り推移しているが、一方で、臨時職員については合併後5カ年間、全職員の3割を超過しており、恒常的な正規職員の不足を招いているようにも思われる。市民に負担をかけないで何かいい手立てはないのだろうか。退職職員不補充による職員不足で、継続的に安定したサービスを提供するのに支障をきたす職場については、増員すべきである。	2次評価 所見・指示事項 【施策の進捗等について】 予定どおり進んでいる。																			
	41.電子自治体の推進	行政事務の電子化により、事務処理の効率化、迅速化を図るとともに、各種申請・届出手続きを容易にし、市民サービスのいっそうの向上を図る。	判定	A 予定どおり(以上)である	企画財政部	166.電子入札システム導入事業(継続) 167.庁内ネットワーク整備事業(継続)																
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)</th> <th>単位</th> <th>基準値</th> <th>実績値</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)				単位	基準値	実績値	目標値									1次評価 施策の進捗について 庁内ネットワークについては、出先機関に至るまで全て整備されており、電子自治体に向けての取組が着実に進展している。また、パソコンの保有率については、現業職員を除くと、90%に近い数字となっている。	1次評価 今後の展開等について 今後、老朽化したサーバやクライアントパソコンのリプレイスによる継続的な改善と、さらに電子文書管理・電子決裁・電子調達等についても検討する必要がある。また、庁外に向けての事業については、市民のニーズに合致した方策が必要であり、利用実績がほとんどない電子申請については平成21年3月末をもって撤退した。		
成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)				単位	基準値	実績値	目標値															
		外部評価 意見・提言 特になし	2次評価 所見・指示事項 【施策の進捗等について】 予定どおり進んでいる。																			
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)</th> <th>単位</th> <th>基準値</th> <th>実績値</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)				単位	基準値	実績値	目標値									1次評価 施策の進捗について	1次評価 今後の展開等について		
成果指標(基準値:H17、実績値:H20、目標値:H23)				単位	基準値	実績値	目標値															
		外部評価 意見・提言	2次評価 所見・指示事項																			